

広報

印西地区 かんきょうせいび

印西地区環境整備事業組合

印西市・白井市・栄町



編集・発行／印西地区環境整備事業組合 〒270-1352 千葉県印西市大塚一丁目1番地1 TEL. 0476-46-2731(代表) FAX. 0476-47-1765

ホームページ◆<http://www.inkan-jk.or.jp/> Eメール◆inkan-jk@pluto.plala.or.jp

印西地区ごみ処理基本計画を策定しました

印西地区3市町では、次の世代に良好な環境を引き継いでいくため、可能な限り“ごみ”の発生を抑制し、再利用できるものは利用するとして、さらに処理する過程で回収できるエネルギーは有効に利用していく「循環型社会の形成」を基本理念とした、「印西地区ごみ処理基本計画」を策定しました。「全員参加型の資源循環地区」を実現するためには、住民一人一人がこれまでのライフスタイルを見直す必要があります。

1 ごみ処理の現状と課題

総ごみ排出量の現状と予測

印西地区のごみ排出量、排出原単位(1人1日当たりの排出量)は、平成18年度に最も多くなり、以降、平成22年度まで減少していましたが、平成23年度からは再び増加しています。今後も地区の人口は増加する予測であることからこのままでいくとごみの量は増え続け、処理に係る負担が増大していくことが見込まれます。

印西地区の総ごみ排出量予測結果

(単位：t/年)

年度	人口(人)	排出原単位(g/人・日)	合計	合計	
				家庭系ごみ	事業系ごみ
H24実績	177,153	865.1	55,934.90	44,834.29	11,100.61
中間目標年度(H32)予測	188,532	858.1	59,048.73	45,897.75	13,150.98
計画目標年度(H40)予測	193,844	855.3	60,521.46	46,021.02	14,500.44

2 ごみの減量目標

① 総ごみ排出原単位

平成40年度に**760g/人・日**とすることを目標とします。

② 家庭系ごみ排出原単位(収集・集団回収資源物除く)

「1」目標の設定より、平成40年度に、平成24年度と比較して**90g/人・日**削減し、**430g/人・日**以下とすることを目標とします。

③ 収集・集団回収資源物排出原単位

「1」目標の設定より、平成40年度に、平成24年度と比較して**27g/人・日**向上し、**200g/人・日**以上とすることを目標とします。

④ 事業系ごみ排出原単位

「1」目標の設定より、平成40年度に、平成24年度と比較して**42g/人・日**削減し、**130g/人・日**以下とすることを目標とします。

目標値の概要

項目	単位	目標	
		中間目標値(H32)	目標値(H40)
家庭系ごみ	g/人・日	家庭系ごみ(収集集団回収資源物除く)+資源物合計	
(収集・集団回収資源物除く)	g/人・日	施策の実施により(470g/人日)	施策の実施により(430g/人日)
収集・集団回収資源物	g/人・日	施策の実施により(185g/人日)	施策の実施により(200g/人日)
事業系ごみ	g/人・日	145g/人・日	平成24年度実績から約25%削減し(130g/人・日)
総ごみ排出原単位	g/人・日	家庭系ごみ+事業系ごみ 800g/人・日	家庭系ごみ+事業系ごみ 760g/人・日

印西地区の家庭系ごみ排出量(目標達成後)

(単位：t/年)

年度	人口(人)	排出原単位(g/人・日)			合計	燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	資源物合計	収集資源物	集団回収資源物	
		排出総量	集団回収資源物を除く	収集・集団回収資源物を除く								
H24実績	177,153	693.4	637.1	520.8	44,834.29	30,818.45	1,271.91	1,586.00	11,157.93	7,521.98	3,635.95	
中間目標年度(H32)	188,532	予測	667.0	613.9	522.3	45,897.75	32,872.67	1,343.13	1,723.86	9,958.09	6,306.90	3,651.19
		目標	655.0	594.8	470.0	45,073.35	29,273.59	1,341.88	1,727.24	12,730.64	8,588.02	4,142.62
計画目標年度(H40)	193,844	予測	650.4	599.3	522.6	46,021.02	33,798.30	1,371.90	1,802.51	9,048.31	5,435.84	3,612.47
		目標	630.0	564.9	430.0	44,574.42	27,247.00	1,372.61	1,804.20	14,150.61	9,544.59	4,606.02

印西地区の事業系ごみ排出量(目標達成後)

(単位：t/年)

年度	人口(人)	排出原単位(g/人・日)	合計	燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	
							H24実績
中間目標年度(H32)	188,532	予測	191.1	13,150.98	12,838.09	97.00	215.89
		目標	145.0	9,978.07	9,744.10	75.70	158.27
計画目標年度(H40)	193,844	予測	204.9	14,500.44	14,150.80	106.41	243.23
		目標	130.0	9,197.90	8,985.64	70.75	141.51



3R推進キャラクター 未来

3 スリム25

●目標の概要

『スリム25』をスローガンに、下記に示す施策重点品目の潜在量を「25%減量」または「25%資源化」することで、家庭系ごみの発生抑制と資源化及び事業系ごみの発生抑制を推進します。

① 家庭系ごみの25%発生抑制

身近な食生活において、必要以上に買わない、残さない、無駄にしないを実践し、ごみの発生を抑える指標として減量目標値を設定します。

〈食品ロスの削減〉

農林水産省の調査によると、一般家庭での1人1日当たりの食品使用量は平成21年度で1,116.4g、そのうち食べ残し等による食品ロス量は約40g(食品ロス率3.6%)でした。

食品ロス量を25%削減した場合、1人1日当たり約**10g**減らすと、印西地区全体で年間約**650t**の減量となります。

〈レジ袋の削減〉

レジ袋は、全国で年間約300億枚使われています。これは1人が年間に約230枚程度使っていることとなります。

マイバッグ使用によりレジ袋の使用を4回に1回断った場合、レジ袋1枚当たり10gとすると、1人1日当たり約**2g**減らすと、印西地区全体で年間約**129t**の減量となります。

〈生ごみ排出量の削減〉

燃やすごみの組成分析結果から、生ごみ等の厨芥類が約45%含まれていました。排出原単位476.6g/人・日で考えると、約210g/人・日となり、25%生ごみ排出量を削減した場合、1人1日当たり約**52g**減らすと、印西地区全体で年間約**3,362t**の減量となります。

発生抑制施策による効果 (単位：g/人・日)

項目	合計	食品ロスの削減	レジ袋の削減	生ごみ排出量の削減	年間の量
発生抑制効果	△63.4	△10.0	△1.6	△51.8	△4,141t

② 家庭系ごみ25%の分別の推進

生活の中で、資源化をより徹底して行う指標として、目標値を設定します。

〈紙類の分別〉

燃やすごみの組成分析結果から、資源にできる紙類が約14%含まれていました。これは、排出原単位476.6g/人・日で考えると、約67g/人・日となり、25%分別を徹底した場合、1人1日当たり約**17g**を資源に分別すると、印西地区全体で年間約**1,099t**の資源化促進及び燃やすごみの減量化となります。

〈プラスチック製容器包装の分別〉

燃やすごみの組成分析結果から、資源にできるプラスチック製容器包装が約8%含まれていました。排出原単位476.6g/人・日で考えると、約38g/人・日となり、25%分別を徹底した場合、1人1日当たり約**10g**を資源に分別すると、印西地区全体で年間約**650t**の資源化促進及び燃やすごみの減量化となります。

〈剪定枝の資源化〉

燃やすごみの組成分析結果から、葉・枝が約1%含まれていました。これは、排出原単位476.6g/人・日で考えると、約5g/人・日となり、25%分別を徹底した場合、1人1日当たり約**1g**を資源に分別すると、印西地区全体で年間約**65t**の資源化促進及び燃やすごみの減量化となります。

25%の分別の推進による効果 (単位：g/人・日)

項目	合計	紙類の分別	プラスチック製容器包装の分別	剪定枝の資源化	年間の量
資源化促進効果	+27.4	+16.7	+9.5	+1.2	+1,814t
燃やすごみの減量化効果	△27.4	△16.7	△9.5	△1.2	△1,814t

③ 事業系ごみの25%削減

事業者においても積極的なごみ減量と資源化を推進していただきます。

1人1日当たりの事業系ごみ排出量を平成24年度の171.7g/人・日から約25%削減し、130g/人・日とすることを目標とします。



4 ごみ減量・資源化の施策

国の「第三次循環型社会形成推進基本計画」では、廃棄物量のみならず循環の質にも着目し、再生利用(リサイクル)に比べて取り組みが遅れている発生抑制(リデュース)・再使用(リユース)の取り組み強化についても政策の柱のひとつとしています。

組合及び構成市町においても、積極的に2R(発生抑制:リデュース、再使用:リユース)を推進しながら、ごみを減らす暮らしづくりを目指してまいります。

施策の体系を、住民・事業者の行動指針となるよう「ひとりで始められること」、「地域のみならず始めること」に分類し、また行政として「制度を整えていくこと」を加え、合計30のアクション(行動)を推進してまいります。

ごみを減らす暮らしづくり

- | | |
|--------------|----------------------------|
| ひとりで始められること | アクション1 ライフスタイルの転換 |
| ひとりで始められること | アクション2 生ごみの処理と資源化 |
| ひとりで始められること | アクション3 雑紙の分別の徹底 |
| ひとりで始められること | アクション4 プラスチック製容器包装類の分別の徹底 |
| ひとりで始められること | アクション5 その他資源物の分別の徹底 |
| ひとりで始められること | アクション6 マイバッグ使用の促進 |
| ひとりで始められること | アクション7 適正排出の厳守 |
| ひとりで始められること | アクション8 イベントへの参加 |
| ひとりで始められること | アクション9 不用品情報コーナー、再生品の活用 |
| ひとりで始められること | アクション10 環境教育への参加 |
| ひとりで始められること | アクション11 集団回収活動の推進 |
| ひとりで始められること | アクション12 効率的な収集・運搬への協力 |
| ひとりで始められること | アクション13 情報共有の推進 |
| 地域のみならず始めること | アクション14 住民・事業者・行政の相互連携の推進 |
| 地域のみならず始めること | アクション15 環境美化の推進 |
| 地域のみならず始めること | アクション16 不法投棄・野焼き対策の推進 |
| 地域のみならず始めること | アクション17 処理困難物への対応 |
| 地域のみならず始めること | アクション18 減量計画書の作成 |
| 地域のみならず始めること | アクション19 事業系ごみの不用品情報コーナーの設置 |
| 地域のみならず始めること | アクション20 事業系ごみの資源化 |
| 地域のみならず始めること | アクション21 ごみの有料化の調査・研究 |
| 地域のみならず始めること | アクション22 事業系ごみの適正搬入 |
| 地域のみならず始めること | アクション23 プラスチック製品の資源化 |
| 地域のみならず始めること | アクション24 新たなリサイクルの仕組みづくり |
| 地域のみならず始めること | アクション25 剪定枝の資源化 |
| 制度を整えていくこと | アクション26 生ごみ堆肥化・循環地域づくり |
| 制度を整えていくこと | アクション27 収集・運搬体制の検討・改善・安全確保 |
| 制度を整えていくこと | アクション28 展開検査の強化 |
| 制度を整えていくこと | アクション29 住民・事業者の各種活動の支援 |
| 制度を整えていくこと | アクション30 災害時の廃棄物の処理体制 |

5 まとめ

印西地区ごみ処理基本計画では、印西地区の統一目標として、ごみ排出量の減量目標を高く設定しました。この目標を達成するために、リデュース(発生抑制)やリユース(再利用)の取り組みを重点に置き、『スリム25』をスローガンとしたごみ減量・資源化の指標及び30のアクションを確実に実行していくことが大切です。

また、印西地区住民を対象にしたアンケート調査によると約95%の方が、ごみの減量やリサイクルに関心があるという結果が出ています。その関心を少しずつ形に変え、実行していくことが、ごみの減量化につながっていきます。

印西地区がこの計画書に示されているように『全員参加型の資源循環地区』として、ごみの少ないまちを目指し、誰もが住みたくするきれいなまちにしましょう。

なお本計画の詳しい内容は組合ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。